

ぐんはる

Vol.139

関東学術大会栃木

経験を重ね
社会貢献の幅を広げる



4

2025

医療人としての資質を高める

整復術を受け継ぎ 信頼を確立

日本柔道整復師会は関東学術大会栃木大会を3月9日、栃木県総合文化センターで開催。各地の会員に加え、学生や一般の聴講者を含め、522人が参加した。挨拶に立った日整の長尾淳彦会長は「治療のみならずどのようにして社会へ貢献していくべきか。交流を深めながら、将来像をみすえながら議論を交わしていきたい」と話し、栃木県の田代富夫会長は「柔道整復師のポテンシャルを高め、克服すべき課題などを意識して、学術発表者たちの研究に耳を傾けたい」と趣旨を語った。

特別講演では「日常診療の腰痛の注意点」と題し、一般社団法人新上三川病院院長の大上仁志先生が登壇した。また、日整学術教育から「匠の技伝承プロジェクトの意義」として学術部の徳山部長が報告。最後に各県代表の会員による学術発表が開かれ、会場からの質問にも答えた。

働き方の変貌や高齢化社会に伴い、腰痛は比較的によく見られる症状である。中には重症化したり神経症状を伴うものもあり、その見極めは困難を伴うことも多い。特別講演では、大上先生が特殊な腰痛を見逃さないチェックポイント

を解説し「日常の診療に生かしてほしい」とした。

腰痛には大きく分けて3つあるという。神経症状のない腰痛、神経症状のある腰痛、見逃したくない重篤な腰痛。こうした症状を捉えるために問診は欠かせない。反射、知覚、筋力、神経刺激症状などをきめ細かな検査も必須だ。

症状の緩和を目指すものとして、痛む時には無理しないのが原則だが、「痛みがひどくならない程度の動きは良い」と積極的な運動も推奨する。気持ちの良いと思えることは何してもよく、安静指導はかえって回復を長引かせて

しまうとのことだ。

体操についても言及。日頃からの継続が重要であり、自分の体に見合った運動を実施することが望ましい。基本はストレッチと筋力増強運動であるが、どのような運動でもやらないよりは実践し続けることが良いという。

ただし、ここで問題になるのが神経症状のある腰痛だ。その筆頭でもある椎間板ヘルニアは比較的若い人の疾患であり、椎間板が脊柱管にはみ出して神経を圧迫。片側の足に痛みや痺れが出現する。一部の人は手術適応となることもある。基本的には保存療法



危険な腰痛を見抜く問診

- いつから痛むのか
- 進行性に痛みが増強しているか
- 下肢痛の神経障害があるのか
- 痛みが増す動作があるのか
- 発熱はあるのか
- 癌などの疾患の既往歴はあるか
- 全身状態、重篤
- いつ進行、神経動作、発熱

のアプローチとなり、一番効果があるのは仙骨硬膜外ブロック。保存療法に効果がなければ手術も視野に入れるが、時間の経過とともに症状が消えることも多いとのことだ。

脊柱管狭窄症も近年よく見かけることが多い。これは年齢的な変化も無縁ではないという。経年で神経の通る穴が狭くなり、動くとき神経が擦れて痛みや痺れが出現。筋力低下があると一朝一夕には回復しない。そのため、「手術はしなくて済めばしないほうがいいが、する必要があるのなら早めに実施するのが良い」と指摘する。

高齢者で気をつけるべきものに圧迫骨折がある。背景には骨粗鬆症があり症状も様々だ。治療は原則、保存療法だが、神経症状がある場合には手術も視野に入れるべきだと主張。

こうした腰痛に通底するのは運動不足などによる腰回りの筋力低下だ。大上先生は「腰痛」は無くならないが、自分自身でコントロールは可能であるとして、治療の意義を見出す。「患者さんの

不安を少しでも少なくしたい。日本の幸せが少しでも増えれば良い」。

アートからサイエンスへ

公演終了後には日整学術教育部の徳山健司部長と山口登一郎部員が登壇。保険による施術を継続していくためには「日々施術をする柔道整復師の教育水準を上げることが重要だ」として、確かな知識と技術を継承し制限性のある柔道整復術の実現、後世に伝承できる教育制度の確立が必要と訴えた。

それには現在日整が行なっている「匠の技伝承プロジェクト」が欠かせない。骨折脱臼の整復技術を科学的に解析し、伝承するプロセスを明らかにすることで次世代柔道整復師と業界のためにアートからサイエンスへとしていかなければならない。これは自分なりの見方を統合して伝えようとするものから、論理

的な分析なしには成立しない世界へとシフトすることとなる。

山口先生は「柔道整復業界への発信だけでなく、異業種への発信力の向上、さらにはグローバルに活動して世界へ発信する実力をつけよう」と未来の研究に期待を込めた。

発表を終えて

会員発表
群馬代表
長屋 努



初めて関東学会で論文発表をさせていただきました。

緊張して言葉が詰まったところもありました。質問も受けましたが、十分な回答だったのか後で思うと反省するばかりです。

しかし、群馬県柔道整復師会及び学術部の皆様の協力、励ましのお陰で、どうにか無事に終わりました。

また、大上仁志先生の特別講演は柔道整復師の立場に沿った素晴らしい講演だったと思います。自分にとって大変勉強になり、これからも関東学会に参加しようと思いました。大変、有難うございました。

4月の当番施術所

前橋	伊勢崎佐波	桐生みどり	太田	高崎	富岡甘楽
6日(日) はら接骨院 027-251-1150	穂積鍼灸接骨院 0270-75-4466	新井接骨院 0277-44-7577 佐藤接骨院 0277-51-5858	タカラ接骨院 0276-31-2543	石井接骨院 027-374-0586 中村接骨院 027-344-1877	勝田接骨院 027-360-5830 ほさか鍼灸接骨院 0274-64-5638
13日(日) 吉沢接骨院 027-254-2113	倉林接骨院 0270-32-8212	くぼづか接骨院 0277-77-2112 福岡接骨院 0277-44-5100	よしだ接骨院 0276-55-6899	たかぎ接骨院 027-371-8066 飯島接骨院 0274-42-6308	渡辺接骨院 027-346-8688 ほりぐちはりきゅう接骨院 0274-67-5329
20日(日) あさひな接骨院 027-260-1234	のぶ接骨院 0270-61-8283	大川接骨院 0277-44-1151 馬場接骨院 0277-73-7455	なみき接骨鍼灸院 0276-52-8588	さまた接骨院 027-372-2178 あおば整骨院 027-364-5916	接骨院・いっ歩 027-386-2235 もてき接骨院 0274-63-8255
27日(木) 前川接骨院 027-251-5540	たなか接骨院 0270-75-1767	奥澤接骨院 0277-76-2036 いけだ整骨院 0277-43-5233	むぎくら接骨院 0276-48-5588	問屋町駅前接骨院 027-393-6776 岡田鍼灸接骨院 027-370-2727	たなか接骨院 027-372-0590 矢嶋接骨院 0274-63-6665
29日(火) あおい整骨院 027-252-6625	根岸接骨院 0270-25-4396	周藤接骨院 0277-44-5827 高柳接骨院 0277-72-2082	増尾接骨院 0276-48-7252	須藤忍接骨院 027-362-5614 丸山接骨院 027-323-0185	とみざわ鍼灸接骨院 027-373-7377 矢島接骨院 0274-63-6840



左の2次元コードからも
アクセスできます。

休日当番は変更となる場合があります。
詳しくは当会ウェブサイトにて、ご確認をお願い致します。



<http://www.sekkotuin.or.jp/kyujitu/index.html>

